▲現在の宮之阪３丁目付近（昭和29年）。中央が現在の宮之阪駅で、道路の奥に禁野橋、遠景には枚方丘陵が望めます。撮影した西禁野在住の橋本勲さん（80歳）は「景色が素晴らしかった」と振り返ります。

▲駅周辺には商業施設やマンションが立ち並びます。

▲現在の枚方警察署付近から橋本さんが撮影した木造の禁野橋（昭和29年）。

まちの発展とともに駅名も変わった

宮之阪

国指定の史跡である禁野車塚古墳がある宮之阪はもともと禁野村に含まれ、野山が広がっていました。明治42年に起こった禁野火薬庫の最初の爆発により、村の中心から農家が移り住んだことが集落の起源と言われています。大正時代には「宮ノ坂」という地名はありましたが、現在の宮之阪駅は昭和15年、京阪交野線の前身・交野電気鉄道時代に、東側に隣接する中宮に住宅が多くあったことから「中宮駅」として誕生しました。「電車は木造でね。たった2両でのどかに走っていましたよ」と話すのは、小学生の時から駅の近くに住む豊倉孝宏さん（78歳）。「買い物の時は岡本町の商店街まで電車で出掛けていました」と懐かしそうに目を細めます。駅の周りは一面の田畑で「夏になると、近くの小川でホタルを見ることができるくらい自然があふれていました」。

昭和31年に中宮第一団地が建設されると人口は急増しました。45年、天野川沿いに大型スーパーが開店したことをきっかけに、小売店などが相次いで進出。近隣のまちからも多くの買い物客が訪れ、活気あふれるまちへと変わりました。そんな中、中宮駅を初めて利用する人が宮之阪周辺を「中宮」と勘違いするケースが頻発。「実態とそぐわないので駅名を変更してほしい」という地元住民らの要望を受け、46年に「宮之阪駅」と改称されました。

現在も新たなマンションが建設されるなど発展を続けていますが、拡幅工事が進む道路は今も変わらず禁野橋へと通じ、当時の面影を伝えます。（平成24年5月号）